

えりも町での活動～ 国立公園のガイドを目指して



鈴木 亜室 (すずき あむろ)

1995年岩手県北上市出身

岩手県内の高校卒業後、江別市の酪農学園大学へ進学。在学中は北海道内のヒグマについて研究。卒業後は札幌市内の一般企業に就職。転職を機にえりも町地域おこし協力隊として着任。卒業後は自然ガイドとして活動予定。

【地域おこし協力隊に応募したきっかけ】

私がえりも町の地域おこし協力隊に応募したきっかけは、自然の多い町で暮らしたかったからです。私は岩手県出身で、北海道には大学進学で来ました。もともと動物に関わる勉強がしたいと思っていたところ、高校の先生に紹介されたのが江別市にある酪農学園大学でした。大学ではヒグマをテーマに研究し、道内数カ所でヒグマの行動観察を行っていました。卒業後は一般の会社で営業職をしておりましたが、転職を考えていた時にえりも町の地域おこし協力隊の募集を見つけました。募集内容は、『コンブボートクルーズ運営補助』という内容でした。このクルーズは襟裳岬で昆布漁師の漁船に乗り、襟裳岬の風景や、昆布、野生のゼニガタアザラシを近くで観察することができます。



コンブボートクルーズ

名前だけはなんとなく知っていたえりも町ですが、この募集を見つけた後に調べてみると、山と海が近くにあり、自然が豊かな町であることがわかりました。自然が豊かな場所で、自然に関わる仕事がしたいという思いで、えりも町の地域おこし協力隊に応募をしました。

【地域おこし協力隊としての活動】

私がえりも町に地域おこし協力隊として着任したのは令和2年の8月でした。当時は新型コロナウイルスが流行しており、旅行や外食、各種イベントなどが自粛されて、着任した当初も、町内のお祭りなどのイベントが全て中止になってしまいました。そして、観光客も激減し、コンブボートクルーズの利用もかなり少なくなり、観光分野での仕事がほとんどなかったため、活動もなかなかできない期間が2年続きました。やっと町内のお祭りなどが再開したのが3年目の夏からでしたが、それでも規模縮小で大規模には行われませんでした。令和3年には太平洋沿いに赤潮被害が発生し、えりも町の特産品であるエゾバフンユニやつぶ貝等に深刻な被害を及ぼし、春の恒例イベントであった「えりもうに祭り」も中止に追い込まれました。このように新型コロナウイルスなどの影響により、町内での活動や、町民やほかの地域の協力隊との交流の機会などもなくなり、活動に影響が出てしまいました。そのため、総務省から協力隊活動を2年まで延長できる特例措置を使い、令和7年3月まで活動を延長しているところです。

現在、メインの業務としては「コンブボートクルーズ」の受付等を行っています。電話やオンラインからの予約を受け、船長との調整を行います。コンブボートクルーズでは、予約に合わせて運行する内航不定期航路という形で事業を行っています。その日の天候や船長の仕事の都合などに合わせて急な時間の変更もあるため、事前の問い合わせの時に、そのあたりを了承してもらっています。当日は集合場所から乗船場所までのご案内をします。また、乗船客が満員ではない時や次の案内がない時などは一緒に乗って、ガイドやアザラシの写真を撮影したりしています。



襟裳岬のアザラシ

協力隊としての活動の傍、先述のアザラシの撮影のほか、町内の豊かな自然や、野生動物などの写真撮影も行っています。撮影した写真は、SNSへのアップやポストカードにして、襟裳岬の「風の館」で販売も行っています。令和5年には日本郵政とコラボし、「襟裳岬の自然」というフレーム切手も作成しました。

協力隊のメイン業務以外での活動では、えりも町内での観光で何ができるのかを検討し、各種補助金の申請や、採択された事業の運営なども行っています。

自転車を活用したレンタサイクルのモニターツアーや、海岸線のゴミ拾いなどを行いましたが、えりも町は風が強く、起伏も多い地形のため、通常の自転車では体力がないとなかなか難しいということがわかったり、観光案内所などの施設がないため、管理場所やそこに割く人員がないなどの問題も見つかりました。

そのほか、えりも観光協会が開発したアザラシの型をしたおやき「トツカリ焼き」の生地を開発を行い、販売も行いました。生地はもちろん中身の具材についてもいろいろなものを試作し3ヶ月ほど開発に時間がかかりました。「トツカリ焼き」は、えりも町内のお祭りや、イベントなどで販売を行っています。

協力隊の活動終了後に活動の幅を広げるために、資格の取得にも取り組んでいます。現在までに、北海道



トツカリ焼き

アウトドアガイド（自然）、NEALリーダー（自然体験活動指導者）、狩猟免許（第一種銃猟・わな）、労働安全衛生教育（チェーンソー・刈り払い機）の資格を取得しました。令和6年春からは、環境省の自然公園指導員として国立公園内のパトロールなども行っています。

【今後の活動】

えりも町は日高山脈襟裳十勝国立公園に指定されており、国立公園内には、ハート型の湖で、白い恋人のCMでも使われたことでも有名な「豊似湖」や、ゼニガタアザラシが生息している襟裳岬などがあります。多くの観光客は襟裳岬を見るだけで終わってしまいますがほかにも、伊能忠敬や松浦武四郎が歩いた猿留山道があります。この猿留山道は江戸幕府が北海道に最初に作った官製道路で、ほかの国立公園と違いしっかりと整備されている道は多くありませんが、逆に整備されていないからこそ、そのままの自然が楽しめるのではと考えています。えりも町には現在ガイドがいません。私は、えりも町内をメインフィールドとし、ガイドとしてえりも町の自然環境を紹介できる人材になりたいと考えています。試験的に豊似湖でガイドを行っており、旅行会社からの依頼なども受け付けています。

ガイド活動だけでは収入が少ないため、そのほかの活動も行っていきたいと考えています。現在は、取得した資格を活かし、地元の自伐林業者のもとで林業の手伝いを行ったり、外注で動物や森林の調査なども請け負っています。これらの活動は、ガイドの知識の向上にもなると考えていますので、狩猟免許の取得をし、銃の所持許可の取得を目指しています。

今後はえりも町を拠点とし、小さな仕事をたくさんすることにより、多くの経験や知識を身につけながら活動をしていきたいと考えています。



ガイド中